

★2022年度 アジア草の根助成 書類選考通過団体（投票用紙に番号又は団体名を記入）

同じアジアの一員としてアジア諸国で地域の市民のために活動する団体を応援する助成です

団体 番号	団体名	活動 エリア	助成の対象となる事業名と事業概要（応募用紙から）	申請額 （万円）
ア1	NPO 法人 SB.HeartS tation	フィリピン （ミンダナ オ島）	<p><b>ミンダナオ地震避難地域マキララ市ブハイ村小学校簡易校舎建替えと子どもたちの健全育成支援事業</b></p> <p>フィリピンは 7,000 以上もの島を領有する島国であり、人口 1 億人のうち貧困層が約 30%いるといわれています。今回対象となるミンダナオ島マキララ市ブハイ村の地震による避難民は、1500 人～2000 人いるといわれています。平均世帯所得は国際的な貧困ラインの水準以下となっている。地震災害で学校は壊れたままで 3 年たっても修復されていない。行政による建替え計画はあるものの具体的になっていない。現在は簡易校舎（バラック的なもの）3 つで勉強しているが、それも古くなってきているため、校長先生は簡易校舎の立替を希望している。僻地ではオンライン授業もできず、宿題を受け取って家で勉強した学校に提出するという毎日である。お米は買えないので山芋と食用いもバナナを主食としている。家もトタン屋根やビニールシート屋根で作られた粗末な家で暮らしている。そのような環境の中で、村人や避難民は必死に生活しているため、教育環境の改善と生活環境の改善（健全育成）支援を行う。</p>	50
ア2	藪の傍	カンボジア シェムリア ップ州	<p><b>ケオポア中学の学校菜園開設+循環型農業実習・環境教育・人材育成</b></p> <p>内戦で教育を受けていない親は、職業の選択肢もなく隣国への子連れで出稼ぎは子どもの教育の機会も奪っている。村に仕事をつくり、誰もが教育を受けられる環境整備が貧困から脱却に繋がる。2017 年ケオポア中学訪問時に校長が「生徒の放課後のバイトが欲しい」と言われた。日本の団体が建設した中学と広大な景観と経済の融合がキーとなる。</p> <p>生徒達が環境負荷の少ない循環型農業を放課後に校庭で実践することで、化学肥料や農薬を使用しない有機農業を実体験し生きた知識や技術を身に付ける。</p> <p>そして販売により付加価値の高い野菜の商品価値を理解する。養鶏（卵・孵化・食肉・鶏糞等）による循環型農業を父兄の村で小さな規模で始める。中学で学んだスキルを更に発展させ指導や技術者の育成も行うことで、循環型農業の近隣の村や隣接する国への波及を促進する。</p>	50